

廃校・既存建物を活用した酒造所

New breweries/distilleries at closed school buildings

チャーオ、シーナです。日本では 21 世紀になって、急速に廃校が増えているそう。その廃校を地域の起業家に貸し出して、工房、オフィス、ショップなどにする地域活性化が全国で増えていますね。なかでも近年は、醸造所・蒸溜所にする例がとても多いです。ほかにも、「古い町家」、「廃線駅舎・無人駅舎」、「商店街の空き店舗」、「空室が増えた団地の一室」などを活用・改装した酒造所も増えています。既存建物再利用の酒造所がこれほど一気に増えることは今までなかったし、海外でも例がないと思います。今回は、「廃校利用」の酒造所のほか、「町家」、「駅舎」、「銭湯」の事例をウォッチしました。

(text = Sienna K. Emiri)



シーナの私的考察  
紙幅の都合で掲載しているのは一部で、廃校利用の酒造所はほかにもいくつかあります。こうやって並べてみると、比較的新しい建築が多いのに驚きますね。新しいと、建物も頑丈で改装しやすいでしょう。教室を利用する場合はスペースが限られますが、体育館を利用している酒造所もありますね。  
既存建物再利用の酒造所の増加は、人口減少・少子高齢化が急速に進む日本独特の現象だと思えますが、既存の建物は地元の人にとって馴染みがあって、実は「行ってみたい場所」であることが多いですね。次ページには、町家、駅舎、銭湯を改装した事例を掲載していますが、どれも建物自体が人を引き寄せる要素があると思います。  
(text = Sienna K. Emiri)

-----  
廃校利用の先駆け？ きた産業は、一升びん王冠の需要の急増にともない、1967年に奈良・深川工場を開設しました。これは、閉校になった旧・深川小学校の建物を利用したものでした。(写真は開設時のもの。その後、一升びん王冠の需要減少で1990年代に深川工場は閉鎖)

きた産業 深川工場 1967～1995年 / 奈良 (旧・深川小学校 - c1960年廃校)

※ ネットなどから取り込んだ画像 (一部は実際に撮影した画像) で構成しています。



# Sienna's Watching



町家などを活用した酒造所



Beer  
マツヤ京都町家麦酒醸造所 / 京都  
(キニン正宗の建屋を改修 - 1997年)



Beer  
SPRING VALLEY BREWERY / 京都  
(築約100年の町屋を改修 - 2017年)



Beer  
家守堂 / 京都  
(明治のお茶屋を改修 - 2019年)



Mead  
金市商店 京都蜂蜜酒醸造所 / 京都  
(京町家を改装 - 2024年)



Beer  
郡上八幡麦酒こぼこぼ / 岐阜  
(築80年の町家を改修 - 2013年)



元・銭湯の酒造所



Beer  
HOPDOG BREWING / 秋田  
(元・銭湯を改修 - 2023年)



Beer  
ヒガビール / 大阪  
(元・銭湯を改修 - 2019年)



駅舎につくった酒造所



Sake  
haccoba / 福島  
JRの無人駅舎 (2024年)



Beer  
石見麦酒 / 島根  
JRの無人駅舎 (2024年)



(海外編) 元・教会の酒造所



Beer  
Ominipollo  
スウェーデン



Beer  
Church Brew Works  
アメリカ、ピッツバーグ